



## ウトナイ湖通信

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

## トピックス

## ☆ 渡り鳥を楽しむ、知る、学ぶイベントを開催 ☆

ガン類やカモ類、ハクチョウ類などの渡来シーズンにあわせ、これら水鳥に興味を持っていただき、ウトナイ湖が渡りにおける重要な中継地であることを伝えようと、10月6日(土)～8日(月・祝)に、今年で6回目となる「渡り鳥フェスティバル」を開催しました。

6日に行なった初企画の「毛糸で作る渡り鳥」では、当センター職員の手ほどきを受けながら、初級者向けとしてオオハクチョウを、中級者向けとしてオオジシギを完成させました。



「渡り鳥・クイズ大会」では  
レクチャールームに歓声が上がった

浦達也さんが「オオジシギの道内調査から見てきたもの」と題し、約30名の参加者を前に、北海道内の推定個体数が約3万5千羽であることなどをお話しました。

3日連続で行なった「秋の渡り鳥ウォッチング」には、のべ約30名の参加があり、渡って来たばかりのコハクチョウやマガンなどを観察。7日は、目の前を飛び去るカワセミにも出会えました。

他にも、館内でマガンのカウント調査を体験いただく、渡り鳥たちにメッセージを書いていただくなどの企画を行ないました。



「毛糸で作る渡り鳥」には親子で参加いただいた

7日の「渡り鳥・クイズ大会」には、集まった約40名の参加者に、苫小牧市の公式キャラクター「とまちょっぴ」も加わりました。あいにくの天候により室内での開催となりましたが、「ハクチョウ」や「渡り鳥」をテーマとした3ラウンドの〇×クイズに、大いに盛り上がりしました。

8日の「渡り鳥講座」では、日本野鳥の会(東京)自然保護室の



「渡り鳥講座」ではオオジシギの話を知った

## ☆ 結果発表！オオハクチョウの渡来日予想クイズ ☆

当センターでは、「渡り鳥フェスティバル」のプレイベントとして、毎年ロシアから渡って来るオオハクチョウの、今年の初確認日を予想いただくクイズを9月に行なっていました。

応募総数は計67名(枚)。渡来日の予想は10月1日から10月18日にわたり、最も多くの予想があったのは10月10日の9名(枚)でした。

そして結果は・・・10月12日。日本野鳥の会のレンジャーがこの日、マガンやコハクチョウの群れに混じる成鳥5羽以上を初確認しました。奇しくも、昨年、一昨年と同じ日でした。

3名の方がこの日を見事的中させ、厳正なる抽選の結果、札幌市にお住まいの弓削敦子様に野鳥図鑑などの賞品をお渡ししました。



群れの中にオオハクチョウを確認した



【自然観察路情報】

2018年10月5日(金) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

ヒシクイ、マガン、カワウ、アオサギ、ダイサギ、トビ、コゲラ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ(亜種シマエナガ)、メジロ、ゴジュウカラ、ベニマシコ、アオジ

《植物》

エゾリンドウ(花)、ズミ、マユミ、ツルウメモドキ、チョウセンゴミシ、ノブドウ、ケヤマウコギ、タラノキ、コナラ、イボタノキ、マイヅルソウ(以上、実)、ヤマモミジ、ツタ、タラノキ、ヤマウルシ、ツタウルシ(以上、紅葉)

《昆虫・その他》

アキアカネ、ノシメトンボ、ルリボシヤンマ、モンキチョウ、クジャクチョウ、センチコガネ、ハッカハムシ、エゾリス

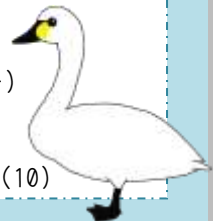


【水鳥カウント調査結果】

2018年10月18日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 \* ( )内は個体数、(+)は「以上」、(±)は「前後」の意味

ヒシクイ(501+)、マガン(8120+)、コブハクチョウ(5)、コハクチョウ(474+)、オオハクチョウ(44+)、ヨシガモ(6+)、ヒドリガモ(96+)、マガモ(52+)、カルガモ(3)、ハシビロガモ(5+)、オナガガモ(13+)、コガモ(25±)、ホシハジロ(75±)、キンクロハジロ(76+)、スズガモ(54+)、カイツブリ(19+)、カンムリカイツブリ(6+)、ハジロカイツブリ(4+)、カワウ(6)、ダイサギ(1)、オオバン(2)、タシギ(1)、トビ(1)、オジロワシ(1)、種不明カモ類(92+)、種不明カイツブリ類(10)



コハクチョウ



11月の自然予報

例年に比べ今秋はガン類の羽数が多く、10月26日時点で、約7100羽のマガンと約200羽のヒシクイが確認されています。湖が結氷するまでの間は、まだしばらく賑わうでしょう。

初雪、初氷など冬の便りとともに、マヒワやツグミなど冬鳥の初認が続くでしょう。オオワシも姿を見せます。



湖が結氷するまで見られるダイサギ



2016年11月6日の様子。マユミの実に雪が積もる 来るでしょう。

赤茶色に美しく変わったコナラやミズナラなどの葉は、10月下旬の突風で落葉してしまいましたが、木の下には比較的多くのドングリが落ちています。

マユミやツルウメモドキの実が目立ちます。小鳥がその実を食べにやってくるでしょう。



自然観察路そばのハンノキで実を食べるエゾリス

厳しい冬を前に、木の実などをせっせと集めるエゾリスやシマリスも見られるでしょう。

【ヨシガモ】

ウトナイ湖でよく観察されるカモ類のひとつ。繁殖期のオスの特徴は、ナポレオン帽とも称される頭の形、そして風切羽が長いこと。葭で作った蓑をまとったように見えることから、蓑鴨よしのがもや蓑葭よしのよしという別名もあります。ウトナイ湖では春と秋の渡り時期に見られるほか、少数が冬を越します。



\*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題している。あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 落ち葉の季節。さて、次に挙げた針葉樹のうち、冬に葉を落としてしまうのはどれでしょう。



(あ) エゾマツ



(い) カラマツ



(う) トドマツ

答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

メジロ

体重 11g



眼の周りのアイリングが特徴的



喉は鮮やかな黄色

2018年 10月 14日 くもり 2:00

苫小牧市内の港近くで飛べずにいたところを釣り人が保護

10月14日 早朝、保護した方が近くの公園でリリースを試みるも飛べなかったため、11時頃センターに搬入。初診時、目立った外傷はなし。触診でも骨折等の所見はなかったが、低空飛行しかできず打撲傷としてケアにあたる。半切りにしたりんごを与えたところすぐに自発採餌を始める。

10月16日 ケージ内でリハビリを継続。

10月18日 広いケージで飛行確認したところ、十分な飛翔をリリース 認めたためリリース。

メジロ (スズメ目メジロ科)

北海道へは夏鳥として渡来しますが、道南では冬期間も見られます。平地から低山の森林に生息し、木の枝先に枯れ葉やコケ、クモの糸などを使って椀型の巣を作ります。枝先で昆虫を捕ったり、果肉の軟らかい木の実や花の蜜などを食べます。渡りの時期には比較的大きな群れで移動します。雌雄同色です。

## イベント情報

### ボランティア募集説明会

&自然案内ちよこっと体験

日時：11月4日(日)10:00～12:00

対象：高校生以上

定員：申込み先着10名

内容：当センターでのボランティア活動について説明します。また、その活動の一つである「自然案内」を体験いただきます。



### 第2回 野生動物に学ぶ救護セミナー

～シマフクロウの生態と調査秘話～

日時：11月11日(日)10:00～12:00

対象：高校生以上

定員：申込み先着50名

内容：シマフクロウは現在北海道のごく限られた場所でしか生息しておらず絶滅に最も近い種とされています。今回はシマフクロウの生態や保護増殖事業について講師(シマフクロウ環境研究会代表 竹中健さん)からお話を伺います。



## 市民ギャラリー

### 「宗像哲生 野鳥写真展」

日時：10月2日(火)～11月3日(土・祝)

展示：宗像 哲生さん

### 「苫小牧の水鳥絵画展」

日時：11月6日(火)～11月27日(火)

展示：苫小牧市環境生活課



### ◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

### ◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

### 【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

※：(1)「いかに黄葉し、その後は葉を落します。漢字で「落葉松」です。

